

地球観測将来構想小委員会第3回会合 議事録

日時：2019年11月22日 13:00-15:30

場所：東京大学理学部1号館 105号教室

出席者：中村尚、高薮縁、中島映至、岡本幸三、岡本創、沖理子、小池真、高橋暢宏、中島孝、中島英彰、樋口篤志、本多嘉明、横田達也（敬称略 名簿順）

ZOOM参加者：藤井良一、村山泰啓、今村剛、江淵直人、重尚一（敬称略 名簿順）

以上18名

議題：

1. 議事次第のとりまとめについて
2. 小委員会委員のの新規参加について
3. 今後の日程について
4. 提言原稿の草稿の検討
5. 「提言」の重点項目の議論
6. その他

議事内容：

1. 議事次第のとりまとめについて（委員長・副委員長・幹事）に一任された。
2. JAMSTEC の金谷有剛さんに参加頂けることになり現在申請中であることが報告された。
3. 今期の間提案を提出するには、親分科会（地球惑星分科会）に原稿案を提出する必要がある。12月24日の地球惑星分科会で提出したい。

12月20日 次回の小委員会（10:00-12:00@東大理学1号館 105）

12月24日 地球惑星圏分科会で提案（原稿案提出）

1月 原稿提出（査読者選定も必要）

4月30日 査読終了したものを提出

4. 提言のための分担原稿（2020 提言案下書きアセンブル 19112）について議論を行った。科学的状況、社会的状況、技術的状況、国際動向、データアーカイブ体制の課題、体制と課題、最後に提言をまとめる。4の提言のところに2-(3)の実現に向けた課題にまとめる内容に加え、工程表の項目として「気候変動・地球環境監視」を提案。

(1)はじめにの文章について詳細な検討を行った。

(2)フォローアップの文章について詳細な検討を行った。

(3)2017 提言の抜粋の書き方について検討を行った。

重要なポイントを記載することにした。

(4) 提言後の進展についての文章について以下の検討を行った。

①地球衛星観測の戦略的計画推進

・ AMSR3 での進展、「宇宙開発利用部会」「民生利用部会」へ委員が1名ずつ参加等、状況にいくらかの改善があったが、まだ不十分であることを記載。

・ (工程表は) 地球観測衛星については触れていない。改訂方針についても触れる。

②コミュニティ強化と将来計画立案

・ 産学の連携はよくなったが官の連携強化が必要なことを強調する。

③観測データアーカイブ体制の構築

・ 2017年の提言以降、世の中がどのように動いていることについても書くことが重要。

④人材育成の体制強化と地球環境リテラシーの向上人材育成の体制強化

・ 気象学会、JpGU、リモセン学会におけるジュニアセッションについて書くこと良い

(5)実現に向けた課題」についての文章検討：

①地球衛星観測の戦略的計画推進

・ 適応策のための貢献について記載。実利用を支えるためにも論理展開を正確にする。

・ 気候変動は、将来に向けてのリスクが増加している。適応策も、1度定めれば良いものではなく、常に最適な見直しが必要であり、そのために衛星観測が必要。

・ 政府関係者に地球観測衛星の重要性を認識してもらう必要

・ 限られた予算内で常に最適な見直しをすることが大事であることを説明する必要。

・ 現状観測で不足しているところを具体的に書くことが重要。

・ 温暖化は温暖化ガスのみでなく、波及効果についても重要であることが知られていないことが問題。

②コミュニティ強化と将来計画立案の貢献：

・ 地球衛星観測委員会（仮称）」の設置についてはコミュニティの強化の観点からも重要

・ TFについて、今後の道筋を立てる。

③データアーカイブ体制の構築と利活用の推進：

・ 電子図書館よりはデータリポジトリという言葉がよい。データコンシェルジュ（司書）も必要。

・ 人材育成からの仕切り直しが必要。

・ 現存システムとの違いがわかるように記述。

① 人材育成の体制強化と地球観測リテラシーの向上：

・ 「国策」を具体化すべき。

・ データハンドリングに関する記述も追加する。

・ メーカーの技術者育成には定期的な開発がないと技術継承がなされない。

・ 持続可能性を維持することと人材育成を同じ観点で考える。

・ 人材が失われると、復活させるのは非常に難しいというポイントも重要

5. その他

JAXA の今後の方針について EORC での議論が紹介された。

次回（第 4 回会合）12 月 20 日（金）10:00-12:00 @東大理学部 1 号館 105 号教室（予定）

議事：

1. 提言草案の検討
2. 議事要旨について